

平成30年度市政懇談会 開催結果概要

- 日時 平成30年7月3日（火）午後6時～
- 会場 大楽毛生活館
- 出席者 34人

〔市長より説明（別途資料参照）〕

○市立釧路総合病院新棟建設の延期について

○つながる まち・ひと・みらい ひがし北海道の拠点都市・釧路

- ・ 釧路市の課題
- ・ まちづくり基本構想
 - 目指すべきまちづくり
 - 重点戦略
 - 域内循環
 - 域内連関
- ・ 平成30年度の予算
- ・ まちの活力を高める地域経済の活性化
- ・ 地域経済を担う人材育成
- ・ 経済活動を支える都市機能向上

〔事前調査による地域からのご意見等〕

■防災対策について

大津波避難困難地区の大津波発生時における避難等の対策を、早急に示してほしい。

【防災危機管理監】

大楽毛避難困難地域の解消に向けた取り組みは、急務と考えております。昨年12月に、文部科学省から千島海溝沿いの地震活動の長期評価が出され、国も動き出しています。今後は、中央防災会議の予想津波高の見直し、北海道の新たな津波シミュレーションの浸水予想が公表されることとなっています。これに向けて、市といたしましても、地域からのご提案である、公共施設の複合化に関しても検討の素材の一つとしながら、避難困難地域の解消に向けた準備作業をしっかりと取り組んでまいりたいと考えています。

■防災対策について

大地震・大津波・阿寒川の洪水対策が求められており、より安全な施設・避難路・避難方法について、地域と行政の連携がさらに求められる状況にあります。これまで地域と市の連携が進められてきましたが、課題の多い中で、どのように取り組んでいくのでしょうか。

【防災危機管理監】

大楽毛地区の皆様とは、これまでも連携をとらせてもらいながら、現状でできることなどを話し合い、津波対策の一部を手掛けてきたところです。また、地域の皆様からの要望の大きかった阿寒川対策につきましては、洪水時の円滑かつ迅速な避難を確保し、被害の軽減を図るため、「阿寒川の水位周知河川への早期指定」を、今年度、北海道に要望を行う予定でおり、既に要望に向けて良好な関係を築いております。引き続き、各種災害の対策につきましては、これまでどおり地域の皆様のご協力をいただきながら、取り組んでまいりたいと考えております。

■商業施設の誘致について

大型スーパーが星が浦地区に集中しているため、今はバスや自転車・自家用車などで買い物をしています。今後、高齢化とともに日常の買い物が困難になっていくので、大楽毛地区に商業施設等を誘致してもらいたい。高専・小中学校・保育園が集中している地区でもあり、これにより今後の住民の増加にも寄与すると思います。

【産業振興部長】

市では、現在、白樺台も含めてさまざまな買い物の困難な方々への対策として、スーパーや民間事業者に出店できないかと働きかけをしているところです。民間事業者の商業環境はなかなか難しい現実があるところですが、まずは大楽毛地区における商業事情や商業環境などをしっかりと踏まえたうえで、高齢者等、日常の買い物が困難な方に対して、どのような対応ができるのか、また、この地域の方が商業施設に、どのようなことに困っているのかと言うことも含めて、地域と話し合いをして、いろいろな形を見出していきたいと考えています。

■交通体系の見直しについて

バスが主たる交通機関であります。朝夕は学生で混雑しており、JRの日中は利用しづらい状況です。JR・バス路線を含めた効率化が必要であり、市内中心部へはJRで、その他はバスでといった利用の仕方ができれば、より便利になります。域内のバスも、JR・国道を挟んで南北の地域に路線を配置することや、域内の循環バス路線などは利用しやすさを促進するのではないのでしょうか。また、鶴野支援学校の増築に伴い、生徒数の増加が見込まれるが、その対策も必要ではないのでしょうか。

【総合政策部長】

市では、昨年6月に持続可能な公共交通網の形成を目的に「釧路市地域公共交通網形成計画」を策定しました。この計画ではバス路線網の再編を目指しています。あわせて、「釧路市立地適正化計画」という市内8カ所に都市機能誘導区域という拠点を設けて、それぞれのエリアが将来にわたって利便性を確保する取り組みがあります。この都市機能誘導区域という8つのそれぞれのエリアを結ぶ部分をバスで考えています。この拠点となるエリアを結ぶ

路線を「幹線」として、そして、幹線の発着を担う乗り換え拠点から住宅地を結ぶ「支線」に分けて運行する手法を考えております。今、バスは駅前からそれぞれの目的地まで、1台のバスですずっと運行しており、そのため時間がかかってしまって、ある部分は混んで、ある部分は人が乗っていない。そのことにより総体的に赤字等が生じて、バス路線を見直さなくてはならないという形になるのを避け、将来にわたってバス路線を維持するために、乗り換えが生じるのですが、幹線で拠点間を運行し、その拠点から乗り換えし支線で地域の住宅をまわるという考え方でいます。こうしたことで、バス車両などの資源を活用して、拠点間では便数の増だとか、住居地域の部分も便数を増やせないかとかを検討しています。また、バスが行ってしまったのか来ていないのか、わからない状態なので、バスロケーションと言いまして、バスがどう運行しているかというのを、スマートフォンなどと連動しながらわかる取り組みも、一部、阿寒バスさんでは始まっており、事業者もいろいろ努力され、利便性が向上しているという状況です。現在、こうしたことを地域公共交通活性化協議会で議論しており、「地域公共交通再編実施計画」が一定程度まとまった段階で、地域の皆さんからもご意見をいただきたいと思っています。現在は、地域のバスをどう残していくかという取り組みをしているところで、ご理解いただきたい。

■大楽毛海岸保全対策について

ハマナス植栽事業、長沼浄化対策、海岸線の高波による浸食防止対策等について、市の考えを聞きたい。

【市民環境部長】

ハマナスの植栽場所については、過去の台風などの被害状況なども考慮し、大楽毛地区の町内会の皆様や釧路自然保護協会の専門家とも協議をし、可能な限り波の被らない場所を選定しています。また、事業実施から30年が経過していますことから、今後の進め方について、地域の皆様のご意見を伺いながらさらに進めてまいりたいと考えています。

【都市整備部長】

長沼浄化対策については、課題として受け止めています。昨年度には、流入水源の排水について水質調査を行いました。しかし、流入水が少ないということがあり、抜本的な対策がとれないものであります。この調査結果も踏まえながら、さらに庁内で対処方法について検討を行ってまいりたいと考えています。

大楽毛海岸の浸食については、釧路市並び海岸管理者であります北海道も把握しております。これまで、海岸管理者である北海道に要望しているところであり、昨年度からは一般要望から重点要望に格上げして要望しており、今後も継続して要望してまいりたい。

■教育機関と連携したまちづくりについて

高専・小中学校・支援学校・幼稚園・保育園等との日常的な連携について、考えを聞きたい。

【学校教育部長】

大楽毛地区については、市内の中でも特に町内会活動を中心に、子どもたちの見守り活動や地域ぐるみの防災訓練、各種地域のイベントの開催など、既に日常的に地域にお住まいの方たちと互いに協力し合い、安全で安心に暮らせるまちづくりを実践している地域であると認識しております。また、大楽毛小学校・中学校では、コミュニティ・スクールとして、地域の皆様にも学校運営に参画をいただいています。さらに、今年度から小学校に地域コーディネーターを配置し、地域や学校のニーズを聞きながら、学校を拠点とした地域づくりを進めているところで、地域のつながりが一層深まるものと考えています。これまでのさまざまな連携に加え、例えば高専様のご協力による小学校でのプログラム教育とか、地域の事業者の皆様の協力によるキャリア教育といったことで、学校を拠点に地域をつなげることにより、地域の皆様のまちづくりに参加する機会を、さらに広まっていくものと考えています。

【こども保健部長】

日ごろより、町内会や地域の皆様には、特に児童センターの運営に関して物心両面でお力添えをいただいております。児童センターでは、センターまつりや、もちつき大会などの行事の際も、いろいろとご協力をいただき交流をさせていただいておりますが、保育園や認定こども園と地域との関わりは、現在、合同避難訓練への参加くらいで、少々希薄であったかと感じていたところです。行政も、また保育園や認定こども園側としましても、地域の皆様との連携や交流を願っていたところであり、今後においては園の行事に地域の方にも参加いただくことをはじめ、地域の行事や交流会などに園も参加させていただくなど、身近なところから交流を持たせていただき、日常的な連携を図り、結びつきを深めていければと考えていますので、よろしくお願ひします。

●意見交換

【参加者A】

避難困難地域の避難態勢について、方向性が決まり具体化される時期の目処はいつごろでしょうか。

公共交通について、大型バスに2～3人しか乗っていないことがよく見られますが、マイクロバスなどの小さなバスにすると良いと思います。

大楽毛地区の公共施設の集約化について、今後の見通しはどうなっているのでしょうか。

【市長】

避難困難地域の解消について、いつというのが言えないのですが、中央

防災会議の予想津波高の見直し後の、北海道の新たな津波シミュレーションの浸水予想が発表されたら、速やかに対応していきたいと考えています。なぜ避難困難地域になっているかという、高さのある逃げる場所がないということで、避難困難地域と言わせていただきました。そこに何か建物ができたら、避難困難地域は解消できるから、早くということなのですが、どれだけの高さの津波を想定したらいいのか、今の段階で不明であります。平成24年に北海道のシミュレーションが出たものの、国の中央防災会議や、前段の文部科学省のものと前提条件が違っています。北海道のシミュレーションは千島海溝と日本海溝の連動型地震でマグニチュード9.1という前提条件です。昨年、文部科学省で出された前提はマグニチュード8.8以上、そして震源は千島海溝と日本海溝の連動型でなく千島海溝のみということで設定されています。北海道では国から新たにシミュレーションが示された場合には、北海道のシミュレーションは取り下げ、国の方をベースで進めていくと言っています。ただ、地震の規模がマグニチュード8.8と北海道の9.1との0.3の違いは大きく、津波の高さや、どれだけの浸水があるのかをはっきり出していただくということ、今、待っているところです。もしかして、津波高が下がった場合には使える建物もあるかもしれません。もうそんなにかからないというふうには聞いてはいるのですが、まだ明確なところは発表されていません。ここが出てきたら、解消に向けての作業を進めていくような形を取っていきたいと考えています。

【総合政策部長】

公共交通の関係で、適切な大きさのバスを走らせたなら効率的でないかという話しです。同様のご意見は説明会の会場でも出まして、バス事業者とこの計画を作る中で、この話も意見交換をさせてもらった中では、朝夕は学生が結構乗りますので、朝の時間帯で使っているバスは日中も使うことになるということです。これから進める取り組みの中で、幹線と支線という形にすることによって、支線ベースになると一定程度それだけしか乗らないということになれば、車両の更新の時にはそういうことも考えられるのかなと思います。

公共施設の複合化に向けて、平成28年2月に大楽毛地区連合町内会様をはじめ3団体からご提案をいただき、平成29年4月、7月、12月と3回、複合化の話し合いをさせていただいてきています。大楽毛地区での施設の複合化という部分では、児童センター、生活館、老人福祉センター、神馬事記念館などなどの施設の複合化という話しをいただいています。これまでの他の地域に無い課題として、この地区では老人福祉センターの件があり、今までに例の無い課題解決の手法になるものですから、それをまず検討しなければならぬということになります。先ほど市長から津波の話がありましたけれども、これまでの経過の中で、避難のスペースという話もありました。どれだけの高さの津波がくるかということの中で、場所が適正だとか、施設複合化にあたって配慮すべき事項なども検討課題であると思っています。そう

いった課題も含めて平成30年度にも、市有財産対策室が皆様と、話し合い
合いを持つという予定を考えております。

【市長】

公有資産の集約化の目的について皆さんにご理解をいただきたいと思いま
す。ベースになるのは、維持管理費を抑えていくことなのです。釧路は22
万人の時に人口25万人を目指して、さまざまな施設を造ってきました。そ
れが17万人強になりました。25万人で利用する施設を持っておきながら、
それを17万人で維持するということは、それだけ負担増になってきます。
それで公共施設を集約し、また、エコな設備で維持管理費を削減できるとい
う観点で進めているのが、この公有資産マネジメントによる施設の集約化と
いうことです。若干、今までの所より距離が離れることはあるかもしれませ
ん。しかしながら、こういった観点で進めているものですので、利便性を増
しながら、こういったことができるという話をしていきながら、進めていき
たいと考えていますので、よろしくをお願いします。

【参加者B】

大楽毛海岸の保全対策について、この前、ハマナスの今年の植栽事業をど
の辺であるかと、市の担当者と海岸に行って状況を見たのですが、海岸線
が国道の方に相当近づいています。かなりのスピードだと思っています。い
ずれは大楽毛海岸が無くなってしまふのではと心配しています。海岸もその
ような状態ですから、これまで30年近く続けてきたハマナス植栽事業が今
後、どこに植栽するかと場所を探すのに一苦労する状況で、だんだん植栽す
る場所が減ってきています。その辺、どのように考えていますか。

長沼について、ヘドロ対策をいろいろとやっていただいているのですが、
長沼も前の状況と相当変わってきて、水が増えて湖みみたいな状況になってい
ます。この問題を今後どのようにして対応していくのでしょうか。

【都市整備部長】

大楽毛海岸の汀線について、過去の空撮と見比べても相当後退しているとい
うことも理解しています。波の状況、それから風向き等々のこともあるで
しょうが、北海道もそのことについては認識してございますので、今後どの
ような形でやっていくのか、私ども要望も含めて伝えていきたいと考えてお
ります。

長沼について、流入水が少なく押せないということがあり、また、長沼
自体の勾配が逆になっていて、結果そこに若干ヘドロのようなものが溜まり、
異臭を放っている状況と認識しています。それから、下手のオタノシケツ
川も波浪によって土砂が堆積したりし、それも阻害している原因と考えてい
ます。オタノシケツ川が波浪によって閉塞したときには、機械で浚渫（し
ゅんせつ）はしているのですが、やはり抜本的な対策をしていかないと
思っていますので、これも重点要望として北海道にお願いをしています。
今の長沼の状況を解析していき、流量のことやこの川の形状をどうしていく

かなどを庁内で検討しているところで、今しばらくお待ちいただき、ご報告させていただきたいと考えております。

また、オタノシケツ川の下手にある消波ブロックは、昭和63年頃に設置したものですけど、そこも埋没しており、それについても北海道にしっかりと提案させていただいています。

【市長】

ここはしっかり取り組んでいきたいと考えています。

【参加者B】

もう一つ心配しているのが、阿寒川が年々、大雨で水かさが増しています。水かさが増したときの状況は、写真を撮って担当部長に送っていますから、それを見ていただいたら分かると思いますけど、大雨が降ったらあふれるのではないかという状況です。そのことも頭に入れて対応してほしい。

【市長】

はい。わかりました。

【参加者C】

釧路の夕日は大変きれいです。夕日の色に似ているパプリカや、釧路の水を使っているオロナミンCなど、地域の商品を活用し、食と観光を連携して、もっと夕日を盛り上げたらどうかと思います。

防災カメラがMOOの下を映しています。防災カメラなので災害時は仕方が無いのですが、普段何も無い時には、幣舞橋からの夕日や夕焼けを映すと良いと思います。

【市長】

パプリカは赤と黄色、オレンジ色があり、そういったコラボレーションを進めていくというのはあるのかなと思っています。地元のレストランでパプリカ1個をそのまま使い、中に地元の鹿肉などの食材を入れて、それをメインに出しているお店もあります。そういった取り組みと合わせながら進めていければと思います。ご当地ハイボールの始まりである夕日ハイボールも釧路でスタートし、1カ月に1万5千杯という記録を出し、それが全国に波及したということもありました。市内のいろいろな行事でも、地元のものということでオロナミンCやMATCH（マッチ）など、そこで作られているものを地元の中に出しましょうということに取り組んでいるところです。そういう組み合わせで、どのようなことができるのか、若い方々の意見とかも聞きながら進めていきたいと思っています。

夕日の映像となると、釧路夕焼け倶楽部がユーチューブなどで配信をしながら、また、写真コンテストをして、いろいろと発信をしています。そういった市民団体の方が取り組んでいただいていることもありますので、そちらも是非一度見ていただければありがたいと思います。

【防災危機管理監】

防災カメラはかなり古いシステムで、思いどおりに動くかどうかというの

もあるので、業者と話をしながら検討していきたいと思います。

【参加者D】

私は子どもたちに冬の学校ということでスキーを30年程教えていますが、道東ではスキーをする子どもたちが少ない。大手は別にして、道東のスキー場は子どもたちのリフトが乗りづらい。大手はエスカレーター式になっています。また、そういう施設があればスキーに慣れていない観光客にもアピールできるのではないかと思います。狭いところを子どもたちが安全に滑れるような施設を望んでいます。また、スケートだけでなくスキーも子どもたちの運動の一つとして検討してもらいたい。

【市長】

観光としてスキーというのは結構重要だと思います。氷都くしろとして、スケート人口の確保ということもありながら、しかし多くの方がやっているのがスキーやスノーボードですので、こういったことも一つの見方として、観光施策を進めていく形なのだろうと思います。阿寒湖畔スキー場は、アルペンの全日本選手権クラスをやっていくとして右側の上級者コースを整備して、左側は多くの方に楽しんでいただくコースとなっており、おかげさまで大変良い評価はいただいています。ここはアルペン競技に適しているとして選定いただいていますので、しっかり整備していき、その情報を出していった価値を高めていくことに取り組んでいければと考えています。また、現在、教育の中ではスケートという形になってございますし、スキーをどのようにとなると、当然さまざまなお意見をいただきながら進めていく形になるだろうと思っています。まずはスキー場の情報をしっかり出しながら進めていければと考えています。